

丸山美由紀

大山文化会館/2015年11月22日

「ピアノ協奏曲2番」、弦楽四重奏との室内楽ヴァージョン、今回は全曲。明確クッキリ表現、生き生きとした楽しさ、ピアニスト嬉しそうに意思表示。率先して創出思惑通り、コンダクター的役割を果たす。2楽章、一音一音ゆっくりと大切に、甘美な想いを切々と、胸に迫る心響かすメッセージ、詩情あふれる上質なキレイサにゾクゾク。気持ち込め感情一体化、作曲家に成り代わって、想いをコミュニケーション。3楽章、躍動と雄弁、明るさと華麗さ、好ましい饒舌さ。ピアノの音にのみ傾注、私自身の不器用さ、オーケストラの場合でも同様、全体を見渡すことがわざ。

「ノックターン1番」、柔らかくてフンワリ、イマジネーションの広がり、間近でなく心地よい距離感。面取りされたピアニストの意思、オブラーート包みのシャープさ、気品にみちた仕上り、一幅の絵。「ノックターン2番」、ロマンチックな作曲家の想いを再現、1番より親近感、美しさ追及の演奏、ベッタリとした演奏家の感情注入は希薄。

「バラード1番」、流れではスムーズで完全無欠な演奏の予感、されどゴツゴツとしたギクシャク感、思いがけない意外性。ストーリーテラーに満足せず、山あり谷ありの当事者、糸余曲折の道筋を辿る冒険者たらんとす、未解決を模索真っ只中のパフォーマンス。悩む演奏スタンスを垣間見る、異なる楽しさ。スケールの大きさ、ダイナミックなスペクタクル、力一杯の朗唱、クライマックスに向け。

「ワルツ3曲」、特徴をよく捉えての弾き分け、ウーン納得。「華麗な…」はウィーン風、快活で優雅と親しみやすさ、華やかな舞踏会の雰囲気、着飾った女性たち。「小犬の…」、ホンワカほのぼの、無邪気で可愛らしい快活さ。「別れの…」、優しく想いを告白、含羞と躊躇い(告別ではないとのコト)。「英雄ポロネーズ」、ブリリアントな元気印、雄々しい威勢のよさ。力漲るハイテンション、テクニックばんばんモード、ネジ巻きスピード、息も継がせざゴールの達成感。

今日の会場で、18年前、演奏家のピアノと樺山文江さんの語りのコラヴォレーション。爾来、ここでは今日で8回目、素敵な演奏とともに沢山のコトを教えていただいてきた。来年の3月で閉館、聴き慣れた場所がなくなることは残念である。(2015.11.25)

ショパン：ピアノ協奏曲 2番 へ短調 Op.21(ピアノ&カルテット)
 ショパン：ノックターン 1番 変ロ短調 Op.9-1
 ショパン：ノックターン 2番 変ホ長調 Op.9-2
 ショパン：バラード 1番 ト短調 Op.23
 ショパン：ワルツ 1番 変ホ長調 Op.18「華麗なる大円舞曲」
 ショパン：ワルツ 6番 変ニ長調 Op.64-1「小犬のワルツ」
 ショパン：ワルツ 9番 変イ長調 Op.69-1「別れのワルツ」
 ショパン：ポロネーズ 6番 変イ長調 Op.53「英雄」
 (アンコール)

ショパン：ノックターン 20番嬰ハ短調 Op.posth

ショパン：幻想即興曲 婦ハ短調 Op.66

【弦楽四重奏】コンセール・サンティ富山
